

卒業生紹介

日本の空の安全を守る

将来の仕事を意識しながら どのような学生生活を 送っていましたか

私が航空管制官という仕事を知ったのは、高校生の時に航空管制官を特集したテレビ番組を見たのがきっかけでした。航空管制官とは、航空機が安全かつ秩序よく飛行できるようパイロットに対して指示を出すことで空の交通整理を行う仕事です。空の安全を守る縁の下での力持ちである航空管制官の仕事に憧れ、私も空の安全を守る一員になりたいと思い、目指すようになりました。航空管制官は英語力が不可欠な仕事であることもあり、大学では英語学を専攻し、特に子どもの言語習得について学びました。また、塾講師のアルバイトやサークル活動にも参加し、様々な経験を行うことができました。大学2年の頃から航空管制官に関する情報を集め、採用試験に向けて勉強を開始し、アメリカのカリフォルニア大学での語学研修に参加するなどして英語力向上に努めていました。

現在のお仕事に就くまでの 経緯を教えてください

航空管制官は国土交通省に所属する国家公務員であり、航空管制官採用試験に合格しなければなりません。そのため、民間企業の就職活動と並行して採用試験に向けて勉強をしていました。航空管制官採用試験は、一次試験から三次試験まであり、適性試験と英語試験（筆記・ヒアリング・会話）があるのが特徴です。適性試験については、航空管制官として必要な記憶力、空間把握力が試される筆記試験と、航空管制業務のシミュレーションによる試験があり、試験対策にはとても苦労しました。

採用試験に向けて1年以上勉強して無事試験に合格することができ、2016年4月に航空管制官基礎研修課程研修生として採用されました。採用後は大阪府泉佐野市にある航空保安大学校に入学し、1年間（現在は8ヶ月間）の基礎研修を受けました。航空保安大学校では、航空管制に関する学科と実技の研修を受け、航空管制の基本的な知識と技術を身に付けます。同期とともに寮生活をしながら研修を受けることで、航空管制官の仕事に不可欠なチームワークを学ぶことができ、同期は私にとってかけがえのない存在となりました。航空保安大学校での研修を修了すると全国各地の官署に配属され、現場で訓練と試験を受けて航空管制官の資格を取得します。私は羽田空港敷地内にある東京空港事務所配属されました。



Yokomizo Marina
横溝 真莉奈

東京航空局東京空港事務所 管制保安部航空管制官

埼玉県出身

2012年4月 お茶の水女子大学文教育学部
言語文化学科入学

2016年3月 お茶の水女子大学文教育学部
言語文化学科英語圏言語文化コース卒業

2016年4月～ 国土交通省航空保安大学校航空管制官
2017年3月 基礎研修課程

2017年4月～ 東京航空局東京空港事務所
管制保安部航空管制官

現在のお仕事内容を 教えてください

一人前の航空管制官として働くには、現場での訓練を経て、数々の試験に合格して資格を取得しなければなりません。東京空港事務所では大きく分けて2つの業務があり、それぞれの業務を行うには別々の資格が必要になります。1つ目の業務は、管制塔で、航空機に対する離着陸許可、地上走行経路の指示などにより交通整理を行う飛行場管制業務です。2つ目の業務は、管制塔とは別の建物にあるレーダー運用室で、レーダーを用いた航空機の誘導などを行い、空港周辺の交通整理を行うターミナル・レーダー管制業務です。



私はターミナル・レーダー管制業務の資格を取得するために日々現場での訓練に励んでいます。空港から出発するたくさんの航空機を、限られた空域の中で目的地に向けて誘導し、秩序ある交通流を形成します。また、ひっきりなしにやってくる到着機のスピード、針路をコントロールしながら、安全で効率的な間隔を設定し、空港に着陸させます。何百人というお客さまを乗せた航空機を相手にしているため、業務中はかなりの集中力と緊張感を要しますが、何事もなく業務を終えられたときやパイロットから「Thank you」と言ってもらえた

ときには大きなやりがいを感じます。一人前の航空管制官として業務をするにはまだまだ訓練を重ねなければなりませんが、一日も早く資格が取得できるようこれからも努力していきます。

在学生へのアドバイス・ メッセージをお願いします

私はこの仕事に就いてからこれまでに何度も困難に直面してきました。どんなに苦しい状況でもくじけずにここまで続けて来られたのは、これまで培ってきた粘り強さと、同期や友人の支えがあったからです。ですので、学生の皆さんには色々なことに挑戦し、何か1つのことをやり抜く経験をしてほしいと思います。何かをやりきったという経験が、これから社会に出て壁にぶつかったときに必ず役に立つはずです。

また、学生時代の友人やこれから出会う人たちのつながりを大切にしてください。私は資格取得のための試験を受ける直前に訓練があまりうまくいかず落ち込んでいたのですが、同期や友人に相談してアドバイスをもらったことで、自信をもって試験に臨むことができました。その結果、試験に合格することができ、大きな達成感と喜びを感じました。学生時代の友人は皆さんにとって非常に大きな存在になるので、大切にしてほしいと思います。

文責：基幹研究院人文科学系准教授 山腰 京子

わたしのオフタイム

同期と食事に行ったり、趣味のピアノを弾いたりしてリフレッシュしています。

また、長期休暇の際は福岡や那覇にいる同期のところへ遊びに行ったりもします。